

太宰府市俳句ポスト第百二十六回入選者

令和七年二月十二日〜令和七年五月十三日

選者 阿比留 初見

奥宮へ枝垂桜のさそふ道

福津市 柴田 佳津子

宿称碑に色を添へたるやぶ椿

糟屋郡 芳野 加代

風強しほころびかけの梅の花

愛知県 兵藤 舞

史跡野に木橋石橋水温む

福岡市 阿部 弘子

初蝶とあとさきに行く都府楼址

福岡市 吉田 文代

紅梅に馳せる想ひを歌にして

東京都 伊藤 豪太郎

ほほゑみかうれひか埴輪春浅し

宗像市 梶原 マサ子

反り橋の反りの天辺梅香る

福岡市 白井 道義

黄砂降るとも人多き都府楼址

春日市 永利 五十鈴

茅葺の本殿濡らす雪しづく

東京都 東坂 明憲

行く春や埴輪に心あるやうな

宗像市 藤崎 由希子

宝満山をくだる小流れ蔭の臺

春日市 田久保 節子

日差し受け飛梅の白輝けり

筑紫野市 笹倉 裕子

槌音を聞きつつ宮の梅開く

太宰府市 松尾 満子

紅梅になほ置く心ありにけり

太宰府市 入江 眞己子

ははのひにおはなをあげるいいきもち

太宰府市 井上 みお 六歳

こけむした梅の枝にもつぼみつく

福岡市 蜂須賀 正隼 九歳

公民館さくらのわかばゆれている

太宰府市 やはた すみれ 九歳

風のんでおよぎだしてるこいのぼり

太宰府市 後藤 みな 十歳

ははの日におてつだいしてあげたいな

太宰府市 渡辺 彩夏 十一歳